

地上気温の日周期の季節変動特性について：高知県の解析
Dependence of diurnal variations in surface temperature
on seasonal cycle: Analysis of Kochi prefecture

1170231 中原健太
Nakahara Kenta

高知県の気象の日周期変動が季節でどのように変化するかを調べるため、長期間の1(もしくは3)時間観測データから毎年規則的に繰り返す日周期変動を解析した。気象庁アメダスもしくは気象官署の地上観測データの気温と日照時間を使い、アメダスの大橋、江川崎、本山、須崎、後免は1978年から2015年までの38年間のデータ、気象官署の高知市、室戸岬は1961年から2015年までのデータを用いた。日周期変動を取り出すため、時間ごとにトレンドを除去した後、同日・同時刻の全年間にわたる平均を求め気候的な年データを作る。これに28日カットオフのローパスフィルターを通して日周期変動と季節変動のみを含む1(もしくは3)時間間隔の1年データを作った。解析の代表的な時間として6、9、12、14(15)、18時を選び、これらの気温差を評価した。結果の代表的なものは以下のようである。(1)12時と6時の気温差(ほぼ日較差)は平野部では冬は夏より大きく、9時から12時の昇温が冬に大きいことが要因であった。山間部では平野部とは逆であった。(2)12時から18時の降温が中秋から晩秋にかけて特異的に大きく、日照時間の解析からこの期間は晴れる確率が高いことが示唆され、赤外放射冷却が一因だと推察された。